



# 社協だより

社会福祉法人 木曾町社会福祉協議会  
長野県木曾郡木曾町日義1600番地1  
TEL0264-26-1116 FAX0264-26-2073



E-mail : [info@kisomachi-shakyo.or.jp](mailto:info@kisomachi-shakyo.or.jp) HP : <http://www.kisomachi-shakyo.or.jp>

## 1月号

令和2年1月25日発行

木曾福島支所	福島6305番地	24-3777
日義支所	日義1600番地1	26-2283
開田支所	開田高原末川2797番地	42-3388
三岳支所	三岳6311番地	46-2117



令和元年 10 月 12 日に上陸した台風 19 号により、千曲川が決壊し川沿いの地域に甚大な被害が発生しました。

木曾町社協では住民の方々へ参加を募り、団体で支援に向かう『災害ボランティアバスパック』を 10 月 27 日～12 月 8 日までの間に 6 回実施し、延べ 75 名の住民の方にご参加いただきました。

また、バスパック以外にも個人で災害ボランティアの活動に行かれた方や、活動には行けないけれど力になりたいと募金活動などにご協力いただいた方など、多くの住民の方々にご支援いただきました。

様々な形で、心を寄せていただきましてありがとうございました。

(詳細は 3 頁をご覧ください。)



# 新年のあいさつ

木曾町社会福祉協議会 会長 邑上 豊美

新年あけましておめでとうございます。

町民の皆さまには、輝かしい令和の新時代をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

旧年中は、木曾町社会福祉協議会の事業活動に対しまして、多大なるご支援、ご協力を賜り、衷心より厚く御礼を申し上げます。

さて、今日の社会福祉は大きな転機にあり、世界にも例を見ない少子高齢化の進行は社会の姿を大きく変え、多くの課題を顕在化させています。社会福祉事業においてもさらなる見直しが求められており、対応にあたっては公的制度に基づくサービスや支援だけでなく、普段から地域の人たちとの顔の見える関係が重要となり、お互いを支え合う地域づくりが大切であります。

町民の一人ひとりが住み慣れた場所で自分らしく暮らし続けることができるために、皆さま方をはじめ町行政や関係団体と連携して様々な福祉課題の解決に取り組むとともに、社会保障制度改革に掲げられた、自助、共助、公助に留意しながら地域での支え合い、助け合いの体制づくりをさらに進めてまいります。

結びに、本年も本協議会の事業推進に対し、一層のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆さま方のご健康とご多幸を心からご祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。

令和二年 元旦

## 生活支援体制整備事業 木曾町お宝発表会 を開催します

人との繋がりや集いの場は、暮らしを豊かにし、いくつになっても住みなれた地域で暮らすためのヒントが隠されています。

木曾町にもちょっとした工夫で元気で楽しく暮らしている人がたくさんいます。ご近所で楽しく暮らすためのコツを聞いてみませんか？

日 時：令和2年3月2日（月）  
13：30～15：30

場 所：文化交流センター 多目的ホール

参加費：無料

内 容：講演 ～つながる喜び・つなげる喜び～

講師 ご近所クリエイター 酒井保氏

発表 木曾町のつながり・集いの場紹介

その他：送迎が必要な方はお気軽にご相談ください。



### ●お問合せ●

木曾町社会福祉協議会

電話：26-1116

担当：蒲沼・吉村・櫻本

### ★★★心配ごと相談所開催のお知らせ★★★

日 時：令和2年2月12日（水） 13：00～16：00まで

場 所：日義 農村環境改善センター

主な相談内容：法律相談(司法書士による)・心配ごと相談・行政相談・人権相談

◎法律に関する相談については、予約が必要となります。

法律に関する相談を希望される方は、2月10日（月）までに、お申し込みください。

また、木曾町社協では、松本弁護士会をはじめ、民生委員、行政相談委員、人権擁護委員、まいさぽ木曾と連携しながら、相談所以外でも相談を受け付けます。

# 台風 19 号災害ボランティアバスパックのご報告

災害ボランティアバスパックでは、長野市で被害の大きかった穂保・津野地区で活動を行いました。この地区は決壊した堤防のすぐそばの地区で、一帯が最高で3mの高さの水にのまれ、多くのお宅が浸水被害に遭いました。床下や庭一面に20cmを超える泥が残されており、その泥を敷地外に運び出す作業や、泥で汚れた家財を洗う作業が主な活動内容となりました。

どの作業も重労働ではありましたが、「被災された方々が少しでも心身を休められるよう、力になりたい」という想いでボランティアが力を合わせ、作業をされているのが伝わりました。

ボランティアセンターが開設し、全国から延べ6万人を超えるボランティアが長野県で活動されました。たくさんのボランティアが活動をされていますが、現地ではまだボランティアの力を必要とする方がおられます。今後は休日を中心に活動を行い、作業内容・必要人数に合わせて募集を行います。登録をしたボランティア優先で活動を行うなど、受け入れ状況も変化していますので、今後活動を予定している方は現地の状況を確認し、活動を行ってください。

災害はいつどこで起こるか分かりません。災害が起こらないことが一番良い事ですが、万が一に備えて今からできる事もたくさんあるはずです。

被災した長野市ではコミュニティの再構築が課題になっています。災害時に備えるためにはまず、普段からのつながり、顔の見える関係作りが何よりも重要になります。普段の暮らしから災害への取り組みについて住民の方々と考えて参りたいと考えておりますのでご協力をお願いいたします。



## バスパックにご参加いただいた方から感想を伺いました。

災害ボランティアという言葉は知っていましたが、初めて参加させていただきました。

被災した地区に近づくにつれ、辺り一面が泥まみれとなり、作業をするお宅やそこへ行く間に見る景色、光景に被害の大きさを感じ、驚きました。

一人では途方に暮れるような作業も、数人集まることにより効率よく作業ができ、人の力の凄さ、ボランティアの重要さを実感しました。

被災された方々が、一日でも早く落ち着いた生活を送れることを願います。

M. N

11月23・29日に、長沼地区へ行きました。

テレビのニュースで大体の想像はしていましたが、実際は思った以上の状況でショックを受けました。そこに暮らしている人達にとっては単なるショックでは済まないのだと思い、言葉をなくしました。そんな中で一掻きでも多くと泥を掻くボランティアの姿が救いのように見えました。

たくさんのボランティアが各地から来ているのですが、決壊した堤防からの被害の範囲が広すぎて大勢いるはずのボランティアの数がまだまだ足りていない様に感じました。

今回、社会福祉協議会さんに声をかけていただき、バスを出して頂いたのが参加することができました。社協と個人が協力する大切さを知りました。

今後も情報を共有して私のできる復興支援をしていきたいと思っています。

松岡 恵



# パラスポーツ 理解への取り組み

2020年8月に東京で開催されるパラリンピックを控え、町内の小中学校ではパラスポーツに対する関心が高まっています。

日義小中学校と三岳小学校では、バンクーバーパラリンピックアイススレッジホッケー銀メダリストの馬島誠さんを講師に迎え講演会とパラスポーツ（ボッチャ・ゴールボール）の体験会を行いました。



## 「ボッチャ」とは？

ボッチャは、ヨーロッパで生まれた重度脳性麻痺者もしくは同程度の四肢重度機能障害者のために考案されたスポーツで、パラリンピックの正式種目です。

ジャックボール（目標球）と呼ばれる白いボールに、赤・青のそれぞれ6球ずつのカラーボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりして、いかに近づけるかを競います。

## 「ゴールボール」とは？

ゴールボールは、目隠しをしながら鈴の入ったボールを転がし、ゴールに入れることで得点する視覚障がい者の球技で障がい者スポーツの一つです。もともとは、第二次世界大戦で視力に障がいを受けた軍人のリハビリテーションプログラムとして考案され、ヨーロッパで盛んに行われているパラリンピック正式種目です。



馬島さんの講演会では、他喜力（たきりよく）仲間や友達、大切な人を喜ばせる力と顔晴る（がんばる）あの人を笑顔にするために続けてみようとする気持ちの大切さを学びました。また、パラスポーツ体験では障がいがあってもなくてもパラスポーツをとおして楽しさを共有することができることを知る良い機会となりました。

今後も、こうしたパラスポーツ理解への取り組みに力をいれていきたいと思えます。

